

第 1 回白馬村地域公共交通検討委員会（観光部会）

議事録

日時：令和 8 年 10 月 2 日（金曜日）

14：00 から 15：00

場所：201・202 会議室

出席委員（13 名）

- ・ 吉田久夫（白馬村副村長）
- ・ 山岸杏子（公募委員）
- ・ 田代雅子（公募委員）
- ・ 福島洋次郎（白馬村観光局事務局長）
- ・ 吉田基威（HAKUBA VALLEY 索道事業者プロモーションボード合同会社）
- ・ 佐藤マリナ（HAKUBA VALLEY TOURISM 事務局長）
- ・ 丸山徹也（八方観光協会事務局長）
- ・ 風間純（風間白馬観光タクシー代表取締役の代理出席）
- ・ 岩下方人（アルプス第一交通大町営業所 所長）
- ・ 薄井浩章（アルピコタクシー大町支社長）
- ・ 鯛縄尚行（白馬交通 代表取締役）
- ・ 塩原隆太郎（白砂長野運輸支局長の代理出席）
- ・ 古畑幸信（JR 白馬駅長）

事務局（3 名）

- ・ 山岸大祐（観光課長）
- ・ 矢口浩樹（観光商工係長）
- ・ 内藤優太（主任）

欠席委員（2 名）

- ・ 工藤秀行（アルピコ交通白馬営業所長）
- ・ ケビン・モラード（Hakuba International Business Association）

委員長・副委員長の選任

委員会規則第 2 条に基づき選任を実施。事務局案につき質疑の上、異議なく承認。

- 委員長：吉田副村長
- 副委員長：アルピコ交通株式会社白馬営業所 工藤所長（本日欠席。事前に了承を得ており、本部会で了承され次第引き受ける旨の報告）

会議事項

1. 報告事項：令和 7 年度冬期（2025-26 シーズン）実績と令和 8 年度冬期（2026-27 シーズン）交通体系（資料 1）

事務局（内藤）より説明。

(1) ナイトデマンドタクシー運行実績

- 乗車完了予約件数 3,242 件、乗車人数 5,809 人。前年度は 5,294 件・10,413 人で、人数は約 44%減。ただし運行期間は年度により異なる（前々年度：12/16～3/16、昨年度：12/15～2/28）。
- 時間帯別の配車不成立：22 時台 2,121 件が最多、次いで 17 時台 1,585 件。夕食の買い出し・飲食・帰宅需要が 17 時台と 22 時台に集中。
- 人気乗降地点：八方第 2 駐車場足湯前 1,064 件が最多。以降、八方エコーランドロータリー、八方アルプス広場、エイブル五龍、エスカルプラザの順。八方とエコーランド周辺に利用が集中。

(2)Uber タクシー運行実績

- 乗車完了数 103,334 回（前シーズン 47,091 回から 119%増・約 2 倍）。
- 利用ユーザー数 39,929 人（78%増）、配車依頼数 229,531 回（52%増）。
- 乗車単価 2,834 円（前シーズン比 6%増）。
- 乗車完了率：31.3% → 45%。日平均稼働台数 28 台 → 55 台（ほぼ倍増）、1 台あたり日乗車完了数 13.3 回 → 14.5 回。タクシー会社の増台・ご協力により応答率が確実に向上。

- 週次実績：2月下旬～3月上旬に配車依頼が急増し、3月2日の週に 32,996 件（令和 6 年度同期の約 2 倍）。2 月以降は完了数が週 8,000 件前後で頭打ちで、供給が上限に近づいている。
- 時間帯別：配車依頼は朝 8～9 時台と夕方 16～18 時台に大きな山があり、16 時台は依頼 160 件に対し完了 67 件と半分以下。朝夕ピーク時の供給不足が顕著。
- 乗降地点マップ：八方～エコーランド間に乗降が集中し、エリア内相互移動も多いことがデータ分析から判明。

(3)日本版ライドシェア運行実績（交通圏で初の取り組み）

- 運行期間 1 月 14 日～3 月 31 日、白馬交通による実証運行。運行時間は朝 8～11 時・夕 16～22 時。運輸局の許可台数 10 台のうち 4 台を割当、登録ドライバー 17 名。
- 乗車完了数 5,003 回、配車依頼 13,128 回、乗車完了率 38.1%、日平均稼働 2.8 台、1 台あたり平均乗車完了数 15.5 回。タクシー全体の**4.8%**の規模。
- 2 種免許を持たないドライバーによる運転への不安や、交通ルールを守らない危険運転の報告が村に寄せられており、今年度実施する場合は安全面の強化が必要。

(4)令和 8 年度冬期の実態整理と取り組み

- タクシー約 2 倍の増台でも需要に追いつかず、配車依頼は八方・エコーランド・五竜・和田野エリアの朝夕に偏在。移動は近距離が中心だが小谷（榑池・コルチナ）方面の配車も増加。Uber 導入でタクシーがより選ばれるように。ナイトデマンドタクシーは観光客より住民リピーターが増加。レンタカー・白タクの目撃情報も増加。
- 台数推移：タクシーは令和 6 年度 57 台 → 令和 7 年度 136 台（約 2 倍）。これ以上の増台には限界が見えてきている。令和 8 年度はアプレスキーシャトル 2 台を新規導入、ナイトデマンドタクシー 4 台 → 2 台に減台、タクシーは約 150 台を想定。配車不成立を含む交通全体の最適化として、配車成立率 80% 超を目標とする体制。
- 今年度の 3 つの取り組み

- ①ナイトデマンドタクシーの減台と八方～エコーランド間の大型シャトルバス（ピストン運行）への転換
- ②小谷村に対する柵池・コルチナエリアの交通手段・対策の強化要請
- ③タクシーの増台

質疑応答

- **田代委員：**ナイトデマンドタクシーとアプレスキーシャトルの運行委託金額について質問。

事務局⇒入札実施前のため確定していないと回答。

情報共有

- **丸山委員：**令和 9～10 年度の名木山ゴンドラ開業に向け、八方地区内の交通の流れを検討中。1～2 月は走行車の 3～4 割がレンタカー（特に海外利用者）で、事故・無秩序駐車・道路不慣れが課題。歩行者と車の分離を目的に、八方地区内の一方通行区間を通年化する方針で、八方区・八方振興会・八方観光協会・村・索道事業者と協議を開始。11 月末頃までに村を通じて公安委員会・警察へ要望する必要がある。また、オリンピック道路交差点向こう側にアルピコの新バスターミナル計画があり、渋滞・右折車・大型バスによる渋滞悪化が懸念されるため、アルピコとも協議を開始している。
- **塩原氏：**レンタカー事故はコロナ禍前比で十数倍。特に関東・成田空港経由の外国人利用者の事故が多い。8 月に白馬村を会場に地区レンタカー会社向けの適正な事業運営研修を実施、12 月に県内全県対象の講習会を予定している。関東からのレンタカー車両への働きかけを長野運輸支局として検討中。国（官公庁）も関心事項であり、引き続き取り組む。
- **佐藤委員：**HAKUBA VALLEY TOURISM として従来のスキー場間シャトルバスを、ゲスト向けサービスから観光インフラへステップアップさせたい。どの宿泊エリア・観光拠点を通るべきかルートを再考し、Uber・路線バス・宿泊送迎との漏れ・かぶりの解消とコスト最小化を、運行計画会社・県、JR の信州観光 MaaS 連携も取りながら最適化の検討を開始している。今後、各事業者へ個別ヒアリングを実施予定。アルプスエリア単位の広域最適化の取り組みとして、ご相談させていただきたい。

- **古畑委員**：来年 4 月から長野県主導で「信州観光 MaaS」が始まる。長野市・松本市・軽井沢町と白馬村が選定され、基本的に県が資金負担。本会議後に担当者が説明をするので、交通事業者・興味のある方はぜひ聴取してほしい。
- **吉田委員長**：新バスターミナル関連の交差点（信号機西側、直進・左折・右折レーン）は公安委員会の交差点協議・道路管理者との関係が生じるため、地域への意見聴取も想定される。開発事業者との調整が出てきたら地域からも声を上げてほしい。

2. 協議事項 1：令和 8 年度 白馬ナイトデマンドタクシー運行計画案（資料 2・3）

事務局（内藤）より説明。

- 運行期間：令和 8 年 12 月 14 日（月）～令和 9 年 2 月 28 日（日）の 77 日間。
- 運行台数：利用減少を踏まえ、4 台 → 2 台に減台（常備 2 台・予備 2 台）。変更点以外は昨年度からの大幅な変更なし。
- 乗降場所の削除（2 か所）：利用回数 40 回以下の乗降場所を、実績・周辺環境の変化を考慮して見直し。
 - ホテルアベスト八方（八方地区）：昨年度利用 28 回（令和 6 年度は 137 回）と大幅減のため削除。
 - 白馬の森（飯田地区）：五竜の飲食店エリア最寄りとして利用されてきたが、昨年度「NABURA」を新設した結果、一昨年度 819 回 → 昨年度 52 回に激減。
- 乗降場所の新規追加（2 か所）：
 - Tori.Co.byHHG/Tori.Co.byHHG（虜）（和田野地区・事務局提案）：タクシー利用リクエストが多く、和田野地区のペンション・飲食店エリアへの乗降場所設置要望が複数寄せられている。
 - かくひら館（大出地区・山岸委員の要望）：夜間に村内飲食店へ移動する高校生・未成年約 20 人の送迎を保護者が担う負担が課題。実証として、追加。

決議：ご意見を踏まえ必要に応じて修正・反映した上で採決に付し、原案どおり承認された。

3. 協議事項 2：令和 8 年度 白馬アプレスキーシャトル運行計画案（資料 4）

事務局（内藤）より説明。

- 運行目的：八方・エコーランドエリア（冬季夜間の観光・宿泊・飲食エリア）の二拠点移動需要の増大により他エリアでタクシーが捕まらない課題に対し、大型モビリティによる二拠点ピストン運行を、観光庁「オーバーツーリズムの未然防止・抑制をはじめとする観光地の面的受け入れ環境整備促進事業補助金」を活用して実証。デマンドタクシー・Uber の運行結果に基づく実証であり、継続的に村が実施するものではなく、結果を見て今後の運行主体を検討。
- 運行方法：運行主体は一般乗合旅客自動車運送事業者。名称「白馬アプレスキーシャトル」で二拠点を結ぶ大型バスのピストン運行。時刻表は基本なし。
- 区間・台数：八方バスターミナル～エコーランド（スパイシー）間を 2 台でピストン運行。利用者は主に観光客。
- 運行期間：ナイトデマンドタクシーと同じ 12 月 14 日～2 月 28 日の 77 日間。
- 運行時間：昨年度データ分析に基づき 16 時台～23 時台。
- 運賃：クレジット決済の不具合（決済が進まない等）の声を踏まえ、現金統一で 500 円。
- 車両：常備 2 台・予備 2 台、29 人乗りマイクロバス（予定）

質疑応答・意見

- **佐藤委員**：経済波及効果測定の有無を質問。「持続的な運行には、宿泊事業者・飲食店が恩恵を受けていることをどんどん見せていくことが重要」とコメント。

事務局⇒現時点で予定していないが、整備が進む分析ツールを使い、乗車人数等の指標で可能な限り出したいと回答。

- **丸山委員**：乗車率が最も高いスノーマシン期（3 月上旬～第 2 週）が 2 月 28 日終了ではカバーできない。1 週間程度、村費での運行延長は可能かを質問。もし厳しいようであれば、「スノーマシン事務局とも調整してほしい」と要望。

事務局⇒過去にスノーマシン期でも需要が少なかったこと、毎年状況が変わるためデータを見つつ来年度以降に検討すると回答。

- **吉田委員長**：スノーマシン期のリクエストはあるがタクシーの完了数が他の期間とほぼ同じで、需要の実態が観光課では把握できない。会場からの第一次移動は主催者シャトルで賄われている可能性が高いため、イベント事務局側にヒアリングし、主催者シャトルで会場へ移動しているのか裏を取った上で判断してほしいと提案。

- **丸山委員**：本バスはオリンピック道路経由でスパイシーまで運行される見込みだが、旧八方からエコーランドへ向かう五竜館前を通る田んぼ道には街灯が全くなく暗く危険。瑞穂区・八方区とも住宅が少なく街路整備エリアから漏れているが、夜間の歩行者が非常に多いと街路灯の設置について要望。

吉田委員長⇒防犯灯は地区単位で設置するものであり、観光地としての宿泊税の使途として整備に当てるのは一考の余地がある。

- **吉田委員長**：運行の詳細を事務局に確認

事務局⇒両拠点から 16 時に同時スタート、基軸路線的に相互運行。ルートは未確定だが基本的に同一ルート。到着後は各車両ごとに状況とタイミングを見て出発。路線上で途中乗車はなし。満席時も予備車両は使わず 2 台で対応（乗客がいっぱいの場合はエリア内は所要 5 分程度のため次の車両に乗車する）。

- **佐藤委員**：手荷物（スキー板）の持ち込みは可能か。

事務局⇒現時点で基本可能で予定している。

決議：意見はあったものの変更を要する事項はなく、事務局提案の運行計画案で採決に付し、承認された。

協議事項 2 点は、今後行われる白馬村地域公共交通会議において審議事項として諮られる。